

しまくとぅばで語る戦世

真栄平編上映

&

比嘉座の芝居

日時：2018年 6 月 17 日(日曜日)

昼公演 14 時 00 分開演

夜公演 19 時 30 分開演

於 CAMPTALGANIE artisticfarm

糸満市米須 304 番地

入場無料

イクサユ しまくとぅばで語る戦世 真栄平編

制作：琉球弧を記録する会



玉城ハツさん(大正7年生)



金城ミヨさん(昭和2年生)



金城公喜さん(大正13年生)



大城藤六さん(昭和5年生)



名嘉真朝一さん(昭和7年生)

琉球弧を記録する会では1997年から「しまくとぅば」による戦争証言記録を行っており、現在、1000人余の証言収録を行っております。今回の「しまくとぅばで語る戦世」では糸満市真栄平公民館において2005年に収録した中から、5名の方々の証言を短く編集し上映致します。

昭和20年(1945年)3月、米軍からの攻撃が始まると、真栄平区住民はアバタガマやアギルン、自分たちが掘った避難壕などに避難します。4月ごろになると、焼夷弾の攻撃で真栄平の部落ほとんどが焼き払われてしまいます。6月中旬、八重瀬岳一与座岳一國吉丘陵の日本軍防衛戦は米軍に制圧され、日本軍摩文仁司令部は、各部隊が最後まで戦闘を継続するよう命令して指揮を打ち切り、日本軍の組織的戦闘は終わります。しかし、字江城には第24師団司令部が存在していたため、真栄平・字江城一帯では激しい抵抗がその後も続きます。最後の防衛線が突破されて、圧倒的な米軍に包囲される中、真栄平一帯には部隊が壊滅した敗残兵が多数逃げ込んできたため、日本兵による避難壕からの住民追い出しが続発し、応じない住民を手榴弾や軍刀で殺傷するという凶行も起こります。

この凄惨な状況を経験した5名の方々は当時、12歳から27歳でした。その方々の証言を今回、ぜひご覧下さい。(出典：糸満市史資料編7戦時資料下巻)

比嘉座の芝居

●演目

久志小節(今帰仁天底節替え歌) / 元ぬ若さ

マシーハーメー / 光(21歳の若者、小禄隆司の一人芝居) ほか

比嘉座は2016年から糸満市での公演を始めました。3年目となる今年は、戦世を必死で生きた人々や、戦争で失われる自然をテーマに制作した作品を上演します。



入場無料

会場：〒901-0335 沖縄県糸満市米須304番地 キャンプタルガニー (米須モータース向かい路地直進)

問い合わせ：070-5437-5463 (比嘉座)

主催：比嘉座、一般社団法人すでいる、すでいる-Regenerationプロジェクト実行委員会

共催：沖縄県、糸満市教育委員会、(公財) 沖縄県平和祈念財団、(公財) 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団

後援：沖縄県教育委員会、沖縄県美術家連盟、沖縄県文化協会、琉球新報社、沖縄タイムス社、沖縄テレビ放送、琉球放送、琉球朝日放送、ラジオ沖縄、NHK沖縄放送局、エフエム沖縄

協力：済州道立美術館(韓国)、キャンプタルガニーアーティストティックファーム、NPO法人 琉・動・体、白梅同窓会・白梅協力会、糸満市真栄平公民館

助成：公益財団法人 花王 芸術・科学財団